



岐阜県商店街振興組合連合会 第58回通常総会開催

令和8年6月2日（火）午後1時30分より、OKBふれあい会館14階「展望レセプションルーム」（岐阜市藪田南5-14-53）に於きまして、岐阜県商店街振興組合連合会第58回通常総会を開催いたしました。



▲第58回通常総会の様子

日比野理事長を議長に、令和7年度事業報告では、傘下商店街において地域資源を再定義し、自律的な活性化を図る動きが加速しました。柳ヶ瀬商店街では、岐阜らしさ・柳ヶ瀬らしさを取り戻すための都市景観再編構想「柳ヶ瀬ランドスケープ構想」を提案し、維持から刷新へと踏み出す「前向きなアーケード撤去」の流れを作り上げる取組を開始しました。また、高山安川商店街では、まちづくり計画の策定に伴い、まちづくり協定を締結。「高山市美しい景観と潤いあるまちづくり条例」に基づき、伝統的な街並みと調和した景観形成に向けた意思統一を図りました。

県商連事業では、中部経済産業局より講師をお招きし、「可視化データを身近に感じるRESAS活用研修」を開催いたしました。岐阜市や柳ヶ瀬周辺のデータを用いながら、スマートフォンの操作を通じて人口動態や人流を数値で捉える手法を体験し、勘や経験に頼らない客観的なデータに基づいたまちづくりの考え方を学びました。

令和8年度事業計画では、商店街を担う人材の確保・育成、若手後継者や新たな起業家を惹きつける魅力あるまちづくりに繋がる事業を実施いたします。一つ目は、青年部・女性部研修会として、東濃と高山に於いて若手後継者等の意見交換ができる研修会。二つ目は、人材育成事業として、生成AIやchatGPTの活用等について学ぶ勉強会。三つ目は、「若手後継者や新たな起業家を惹きつけるには」と題して、まちづくりフォーラムを開催する予定であることを報



▲表彰を受ける松本氏

告いたしました。

御来賓では、中部経済産業局 産業部長 今野直明様、岐阜県 商工労働部次長 山田浩司様、当連合会顧問弁護士 川島和男様からご祝辞を頂戴いたしました。

続いて、商店街功労者に贈られる「岐阜県知事表彰」の表彰式が行われ、大垣市商店街振興組合連合会 理事長 松本正平様が受賞されました。おめでとうございます。

まちが一体となって賑わいを創り出す 春の中山道六斎市まつり

◆主催：中山道中津川宿六斎市実行委員会

5月3日（祝）に、中津川市で恒例の春の中山道六斎市まつりが新町通りと本町通りで開催されました。

今回で183回目となるこのイベント。当日は天気が心配されましたが、開催中は雨に降られることもなく、朝早くから多くの人で賑わっていました。

またこの日は、「ペットと楽しめるお祭り」をコンセプトに、「第5回わんにゃん道中膝栗毛」も本町通りを中心に開催されており、多くのわんちゃんやねこちゃんもお祭りを楽しんでいました。



▲多くの人で賑わう新町通り

今回、中津川商工会議所の成瀬専務理事にイベントをご案内いただきながら、六斎市や商店街の状況について色々とお話を伺うことができました。

■ 六斎市の経緯と特徴

「クルマ社会が当たり前になり、買い物が郊外型になって、街中の商店街がだんだんジリ貧に

なってくるのはどこでも同じだと思います。何とか商店街を活性化するために月一回、交通規制して人を集める仕掛けをしようということで始めたのがこのイベントです。江戸時代に毎月『三』と『八』のつく日に、この地で六斎市という市があったことに由来して、イベント名を『六斎市』と名付けました」。

地方都市の商店街が抱える問題はどこでも同じであり、それぞれが工夫を凝らした集客対策を行なっていますが、今回お邪魔した六斎市では、事前の想定を上回るような本当に多くの人手がありました。

「今回は『春の中山道六斎市まつり』ということで、『わんにゃん道中膝栗毛』も開催されており、交通規制も通常月の倍になっています。『わんにゃん道中膝栗毛』は秋にも開催されますが、ペット連れの認知が広がっており、ペット関連のショップの出店に加えて、本当に多くのペット連れの来場があります。また、JR東海の『さわやかウォーキング』のコース



▲自慢のわんちゃんのファッションショーも開催

にもなっていて、毎年1万人規模の来場があります」。

来場者の多くは地元の人とのことです。出店者は市外からの事業者が多く、常連出店者は継続して出店を続けているようです。

また、地元の高校生が地元企業とコラボして開発した商品を販売するテントもあって、商品開発・販売を実際に行うテストマーケティングの場として活用していました。

この日は全部で174店舗の出店があったとのことで、会場になっている新町通りや本町通りに多くのテントが並んでいました。

■ 市・商工会議所・商店街一体となった取組み

春の中山道六斎市まつりは、中津川市・中津川商工会議所・中津川商店街連盟・(株)まちなかラボ・中津川観光協会・中津川北商工会からなる中山道中津川宿六斎市実行委員会が主催となって運営しています。これまで183回も続けてこられたのは、それぞれの団体が自己主張することなく、協力し合って運営している点にあると成瀬専務理事はお話されていました。

「イベント終了後は、『企画委員会』が開かれて次月の開催に向けて改善を進めています」。

それぞれの団体が協力しあい、毎回毎回PDCAを回すことで、イベントをブラッシュアップしていることが、183回も続けてこられた秘訣といえます。

■ 商店街が直面する課題と連携体制

「商店街全体としては後継者不足が深刻な問題になっていて、商店街単独でイベントを開催する体力がなくなってきました」。成瀬専務理

事は将来に向けての危機感を募らせています。一方で、中津川の商店街では空き店舗が少なく、所謂シャッター街になってはいないとのこと。「市や商



工会議所、ま

▲新町通りにできた新しいホテル「お宿Onn」

ちづくり会社が連携して、市外からの出店誘致を積極的に行なっていることが功を奏しています」。

空き店舗の民泊活用や最近できたホテルの影響などもあり、インバウンド客も増えて、夜の街も以前より賑やかになっているそうです。

中津川市も他の地方都市と同様の問題を抱えており、クリアすべき課題も多いのは事実です。しかし、自治体、商工会議所、商店街が一体となって課題解決に取り組む体制ができており、その典型的な好事例が六斎市の賑わい創出なのだと思います。

商店街が単独で色々な取組みを推進することが理想なのかもしれませんが、中津川市のような三位一体での取組みは、多くの課題を抱える地方都市の商店街にとって大いに参考になるのではないのでしょうか。

まち全体で賑わいをつくる 第57回恵那まちなか市

◆主催：恵那まちなか市実行委員会

5月30日(土)に、恵那駅前周辺エリア(西銀座通り)で「恵那まちなか市」が開催されました。当日は「フォーラムエイト・ラリージャパン2026」の開催もあり、駅前リエゾンイベント

も行われ、更に天候にも恵まれ、朝から多くの人で賑わっていました。

今回で57回目となる「恵那まちなか市」について、恵那市商店街振興組合の大塚理事長にお

話を伺いました。



▲リエゾン区間を走るラリーカー

■ イベントを始めたきっかけ

「始めたのは2010年なのでもう16年前です。現在の市長がまだ市役所の課長だった頃に、街を盛り上げるために何かいいイベントはないかと商店街に相談があって、全面的に市がバックアップするということもあり、始めたのがきっかけです。それまで商店街としては夏祭り、秋祭り、歳末のイベントの年に3つのイベントしかありませんでした。これに加えて、市と商店街が協力して新たなイベントをやろうということになったのですが、年4回以上やることで県からの補助金も出るということもあり、春物語・夏物語・秋物語・冬物語というテーマを決めて、既存のイベントと加えて年間を通して人が集まるイベントを行うようになったんです」。現恵那市長からの相談がきっかけですが、それまでの商店街は、他の商店街同様後継者問題に

よる廃業も多く、シャッター街化しつつあったとのことです。

ただ、このイベントを始めたことで、多くの人が商店街に関心を持つようになり、活気が生まれていることに大塚理事長が手応えを感じているようです。

■ 「恵那まちなか市」の特徴

『まちなか市』の一番の特徴は、季節ごとにテーマを設定していることです。イベント全体としての大きなテーマは、『食とゲームと音楽祭』で、季節ならではの食を味わってもらうのと、随所でゲームを行なって子供達に楽しんでもらうこと、そして音楽演奏を楽しんでもらうことです。今回は春なので『朴葉寿司まつり』ということで、1,000食用意しています。ゲームもユニバーサルスタジオジャパンにヒントを得た、コインピッチやボウリングなどで皆さんに楽しんでもらっています。また、恵那市消防音楽隊、中学生のブラスバンド、ドラム演奏、バイオリンと歌等の出演もあります。あと、もう一つの大きな特徴として、恵那市の中学生がボランティアで運営に協力してくれているということです。イベントの運営となると、人を集めるのが一番大変です。商店街ではこのイベント時期はある意味かきいれどきですし、自分達の商売に専念してもらいたいのので、運営については役員だけで対応するようにしています。ただ、当然それだけでは人が足りないなので、市の中学校と相談し、ボランティアとして生徒に運営の協力をお願いしています。今回は100名を超える中



▲暑い中、かき氷に行列も



▲人気のゲーム、コインピッチは中学生が運営

学生が参加してくれています」。まさに商店街だけでなく、恵那市全体で協力してこのイベントを盛り上げているといえます。

■ 商店街の今後

恵那市駅に隣接した駅西駐車場は、恵那市商店街振興組合が指定管理業者となり、駐車場から得る収益により財源を確保できるようになったとのことです。さらに、駅西駐車場の壁面にデジタルサイネージの設置も検討中とのことで、広告収入による財源確保も考えているとのことです。

「財源を確保できたことで、まちづくりのための取組が色々とできるようになりました。空き

店舗対策などにうまく活用していきたいと考えています」。

大塚理事長の構想はこれだけに留まりません。

「まだ六斎市実行委員会と協議しておりませんが、近いうちに中津川の『六斎市』とも連携したいと思っています。『六斎市』は日曜日、『恵那まちなか市』は土曜日で、同じ週末で実施が重なれば、両方のイベントを楽しんでもらえるような企画を考えていきたいです」。

市との協力体制、地元の中学校との協力体制、他の地域との連携。「恵那まちなか市」は人の賑わいを創出する地域イベントのあり方や可能性を示しているように感じました。

創業114年。老舗の名物「栗粉餅」ベンテンドー

◆神田町五丁目商店街振興組合

岐阜市神田町5丁目にある「ベンテンドー」は、大正元年創業で、今年で114年になる老舗のお菓子屋さんです。4代目のご主人である高井啓光さんと5代目にあたる和希さんにお話を伺いました。



▲4代目ご主人の高井啓光さん

■ ベンテンドーの歴史

「創業は大正元年で、現在の岐阜市白木町に初代が開業しました。翌年の大正2年には、柳ヶ瀬がこれから栄えていくということで、将来性を見込んで旧丸物百貨店（旧近鉄百貨店）前に移転

しました」。

移転した時は喫茶店も併設されていたとのことです。また、ベンテンドーという名前から和菓子をイメージされる方も多いかもかもしれませんが、古くからプリンやロールケーキなどの洋菓子も販売しており、今も店頭に並んでいます。



▲ショーケースに並ぶ洋菓子の数々

「戦時中は砂糖が貴重で、配給の制限もありましたが、2代目になる祖父が、戦争が始まる前に沖縄に行って砂糖を確保して、戦時中はその砂糖を隠しながら使用して営業を続けていたよう

です」。長い歴史の中で、色々な苦難を乗り越えてきたからこそ、今のベンテンドーがあるのだと思います。

■ 名物は栗粉餅

ベンテンドーといえば名物は『栗粉餅』。柔らかな餅を栗粉がやさしく包み込んだこのお菓子は、一口頬張ると、口の中に栗の風味と上品な甘みが広がってきて、何ともいえない幸せな気分になります。

「栗粉餅自体は70年くらい前から作っています。中津川だと栗きんとんが有名ですが、この辺りでは昔から栗のお菓子といえば栗粉餅でした。俳優の伊藤英明さんにTVで紹介していただき、『とんねるずのみなさんのおかげでした』の芸能人御用達お土産ランキングで1位になってから、一気に知名度が広がりました。お店の名物と言えるようになったのは割と最近なんです。ただ、知名度が広がってからは、お客様の8割くらいは栗粉餅を買ってくれますので、最近では洋菓子などは縮小して栗粉餅に軸足を置いています」。

栗の季節は9月から始まりますが、その時期になると開店前から行列ができるほどの人気商品になっている栗粉餅ですが、ベンテンドーでは時期が来ると栗を大量に仕入れて、通年で製造販売できるようにしているそうです。取材した日も栗粉餅がショーケースに並んでいました。



▲極上の和スイーツ、ベンテンドーの栗粉餅

■ ベンテンドーのこれから

現在のご主人である啓光さんは4代目ですが、ゆくゆくは息子の和希さんが5代目としてお店を継ぐことになります。

「お店に来るお客さんは、40～50代の方が中心です。そのようなお客様は、ご両親や祖父母の代から栗粉餅に馴染んでいるお客様です。最近はそのお客様の子世代になる10代のお客様も増えていますが、まだまだ少ないです。学校の職業体験で来てくれる子供たちも、知っている子は半分くらいで、まだまだ知名度が足りないかなと感じています。ここまで114年続けていますが、この歴史を絶やさず、まずはしっかりと続けていきたいと思っています。そのためには『栗粉餅』といえば『ベンテンドー』と、すぐに思い浮かべてもらえるような存在にしていきたいと思っています」。

現在はオンライン販売にも力を入れており、全国のお客様へ栗粉餅をお届けできるようになっています。

お客様が栗粉餅を求めてくれる限り、唯一無二の存在を目指す。変えたくないのではなく、お客様が求めてくれるから敢えて変えない。114年の老舗の重みをしっかりと受け止めようとしている和希さんの言葉には、これから先も長く続けていく強い決意と覚悟を感じることができました。

〒500-8833

住所：岐阜市神田町5-12

TEL：058-262-1397

営業時間：10:30～18:00

定休日：不定休

【取材・記事 中小企業診断士 田口尚正】

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。